◎ 時と美を託す「陶板」の魅力

公益財団法人　横山美術館　館長　鈴木 俊昭

はじめに

古くから欧州では絵画、日本では掛け軸が部屋の装飾として飾られてきたが、退色、変色等によりオリジナルの状態を保つのは難しく保守・管理には専門的な知識が必要とされてきた。そこで欧州では、陶板が登場する。

（※陶器製の板を陶板、磁器製の板を磁板と呼ぶがここでは陶板で統一する）

キャンバスの代わりに陶板に絵を描き、焼成すれば永遠に色褪せる事のない絵画となり、更に額装をすれば、割れることさえなければ数百年の時を忘れて、その美しさを今に伝えてくれる。ドイツのマイセン窯やKPM（ベルリン王立磁器製陶所）が、19世紀に制作した陶板が驚く程の高値で取引きされているのは、その変わらぬ美しさの故である。日本においても江戸時代末期に瀬戸で陶板が制作され、陶磁器に絵付けをしていた画工ではなく、絵を描く絵師が絵付けを行っていた。本絵師による絵付けは、絹本や紙本など平面に描いていたものに近い事もあり、陶板画はますます発展していく事となる。

写真（1） KPM 社製陶板

写真（2） 瓢池園　明治 29 年

海外輸出

明治政府は開国後、海外列強に追いつく為、殖産興業・輸出促進策を推し進めた。外貨獲得のため、日本政府として初めて出展した明治 6 年（1873）にオーストリアのウイーンで開催された万国博覧会では欧米向けに日本産品の売り込みを、国を挙げて図った。このウイーン万博会場には、日本庭園が造られ、鎌倉大仏の縮小模型、五重塔が造られ、日本館には、名古屋城の金鯱がはるばる運ばれて陳列に加えられた。しかしながら、この万博で 1 番の注目を浴びたのは、日本の陶磁器であった。有田、九谷、瀬戸各地から集められ、また、博覧会出品の為に前年に浅草に設立された博覧会事務局付属磁器製造所（東京錦窯）で制作された陶磁器は、欧米から絶賛され、ジャポニズムブームを巻き起こしたのである。

その 3 年後の明治 9 年（1876）米国のフィラデルフィアで開催された万国博覧会では、更に洗練された

日本製陶磁器が出品され、多数の陶板が確認されている。これらは、従来の文様風ではなく、絵師、画家による絵画的な絵付けが施され海外で高い評価を受ける事となった。

写真(3) 涛川惣助 明治前期

写真(4) (3)の裏面

陶板製作の難しさ

陶磁器は、やきものと呼ばれ焼成される事で完成する。磁器の焼成は摂氏 1300 度以上の高温で行われる為、窯のなかで縮んだり変形したりする。中でも陶板は、焼成時に歪み、たわみが容易に出る為、その製作は大変難しく、特に薄く寸法が大きくなればなるほどその難しさは増していく。焼成工程だけではなく、原料の精製、成型、乾燥といった各工程で細心の注意を払う必要があり高度な技術力が必要となる。しかし海外からの旺盛な陶板の需要に答える為、その品質は急速に向上し、欧州製の陶板と比べてもより薄く滑らかな白磁の陶板が造られる事となった。

写真(4)は、写真(3)の裏面である。40cm×28cm の陶板であるが平に焼く為に団子状のトチを 30 個も使い歪みが出ないようにしている。それでも厚みが薄いと歪みが出やすい為、板の厚みは 11mm とかなり厚くして工夫をこらして制作したことがうかがえる。写真(6)は、写真(5)の裏面である。49cm× 27cm の陶板であるが、写真(4)と違いトチの跡が全く無く綺麗な裏面となっており、厚みは僅か6mmで歪みもない美しい陶板である。従来と異なった焼成方法で制作されたと思われるが、卓越した技術は、欧米でも高く評価され貴重な輸出品となった。それでは、誰がこの薄くて平らな陶板を制作したのであろうか。

写真(5) 三代加藤善治制作の陶板

写真(6) (5)の裏面

陶板作りの名人　三代加藤善治

「就中近来著ルシク進歩セシハ加藤善次郎ノ磁器平板ナリ、元来磁器ヲ以テ板面ヲ製スルハ極メテ困難ナ業ナルニ、善ク表面砥平ニシテ焼成適度ナルモノヲ製シタルハ他ニ見サルノ技倆トス」。

これは明治28年（1895）に開催された第4回内国勧業博覧会の審査報告である。この報告書からも判るように、三代善治の陶板の精巧さは他を圧する技量であった事が判る。加藤善治家は、江戸時代後期の文政年間に創業した瀬戸の窯屋で瀬戸の北新谷地区で代々陶磁器の製造を行ってきた。三代善治は、二代善治の長男として生まれ、美濃、常滑、信楽、京都で修行を重ね、明治10年（1877）には家業を継いだ。

各地で17年間に及ぶ陶業修行の成果は如実に現れ、三代善治の代名詞とも云われる陶板は他の追随を許さなかった。現代の技術を持ってしても、125年前に善治の製作した薄くて滑らかで歪みの無い陶板の製作は至難の技であり、善治が如何に卓越した陶磁器製作者であったかを改めて認識するのである。

横山美術館では、現在「時と美を託す　陶板展」を開催中です。

【展覧会情報】

企画展：　時と美を託す　陶板展

会期：　2020 年 7 月 23 日（木・祝）～10 月 25 日（日）

会場：　公益財団法人　横山美術館　（https://www.yokoyama-art-museum.or.jp/）

名古屋市東区葵 1－1－21　TEL：052－931－0006

開館時間：　午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

休館日：　月曜日（祝・休日の場合は翌平日）、8 月 13 日～17 日

入館料：　一般 1,000 円、高・大生・シニア 800 円